

令和2年度 第4回南丹市社会教育委員会議 会議録

日 時：令和3年3月10日（水）午後2時から午後3時30分まで

場 所：南丹市八木市民センター 研修室1・2

出席者：（順不同、敬称略）

社会教育委員：小南 仁、清水範子、麻田健治、粟田千八栄、大嶋久美子、片山智文、
片山幹雄、北村友子、古北真里、伊藤雅史
（欠席委員：岡島賢峰、宅間治郎）

事 務 局：中川教育次長、藤林社会教育課長、浅田課長補佐、村上社会体育係長、
上村主事

傍聴人：0人

1 開会

2 あいさつ 小南代表

3 協議事項

（1）「南丹市社会体育施設の有効活用に向けた今後の在り方について」の
答申（案）について
事務局から答申案の内容について説明。

（委員質疑）

（委 員）「施設の円滑な管理に向けた運営の施策」に記載された社会体育施設の3分の1
の施設が指定管理施設という記載とはどこを指しているのか？

（事務局）八木、美山地域の施設は指定管理者制度により管理している。その施設を合わせ
ると、全体施設の約3分の1になる。

（委 員）この答申を受理された市は、どのようなスケジュールで動いていくのか。例えば、
プール施設などは令和3年度でも稼働が厳しいように感じる。

（事務局）答申内容のような、それぞれの柱がある中ですぐに動けるものではない。手順を
踏みながら進めていくこととなる。

（委 員）公民館答申の際も同じイメージで進めた記憶がある。具体的な施策は、こちらの
答申を参考に数年かけて作られていくのかと思っている。

（事務局）この答申がすべてとは考えていない。例えば、ホップ・ステップ・ジャンプの段
階で例えるならば、ホップの段階のイメージで考えている。

（委 員）市の全体施策と兼ね合いはいかがであるか。

（事務局）合併特例等の優遇措置がなくなる中で、大型プロジェクトは厳しくなっている。
社会体育施設で例えるならば、一括で施設を触ることはできず、財政部署などと

調整を図るうえで進めていかなければならないと考えている。

- (委員) 答申はきれいにまとめている。現状を見ると、利用収入と経費が大きく開いている。条例を改正しない限り、この差を埋めることは難しいと思う。答申に記載できないとは思いますが、例えば、ネーミングライツや受益者負担で補ってほしいと考えている。
- (委員) 施設見学に廻った際、プール施設以外に危険を感じる施設があったかを聞きたい。
- (委員) プール施設に関しては、機能を果たしていない印象があった。その他の施設では、早急に使用ができないといった危険な施設はなかったと感じた。
- (委員) 体育館については、雨漏りは避けられない施設であると思う。プール施設は危険を感じた。
- (委員) プールは使用しなければ、機械等含めて傷みが酷い印象があり不安がある。
- (委員) 単一で設置された施設については、南丹市公共施設再配置計画に沿って進めていくとあるが、計画に具体的な記載はないと思う。
- (委員) 人口やスポーツ活動が減っている現状で、施設がいくらあっても意味がないと思う。施設単独で動くのではなく、スポーツ活動推進も併せて記載してもいいのかと印象がある。
- (委員) 以前、公共施設のワークショップが開催された時に参加し、普段、利用しない施設があるので、市外の団体などが利用すれば使用料が入って良いなどの意見があった。情報発信をして、沢山の方に利用いただくのもいいのかとも考える。
- (委員) 観光要素も含めて、施設利用を進めていければとも考えている。美山でいうと、宿泊を含めたグラウンド利用など。
- (委員) 園部高校などを例に挙げると、施設開放日に京都市内から野球チームのグラウンド利用があったりする。優先は南丹市民であると思うが、環境を整えてあげれば、他市や他府県からのニーズはあり、収益性があると思う。広報活動・宣伝が大事であると思う。
- (委員) それぞれ意見をいただいたが、特に答申についての記載については意見がなかったと思う。この答申案でいければと考えるが、意見等はないか。
- (委員意見なし)
- (事務局) では、この答申で進めていく。答申書については、小南代表と日程調整を進めて、教育委員会へ提出させていただく。

4 その他

放課後児童育成健全事業運営委員 古北委員を選出することで確認。

今年度の会議はこれが最後となる。来年度、早めの開催を心掛けたいと思う。来年度もよろしくお願ひしたい。

5 閉会 清水委員